

研修報告書 No.22

所 属：東邦大学医療センター大森病院
氏 名：研修医 山口英理子
研修先：大月町国民健康保険大月病院
宿毛市立沖の島へき地診療所

平成 30 年 2 月 26 日から 3 月 24 日まで、大月町国民健康保険大月病院及び沖の島へき地診療所にて地域医療研修をさせて頂きました。

私はこれまで東京都、神奈川県でしか生活したことがなく、地域医療研修で高知県を選択できる機会があると伺い、せっかく地域医療を経験するならば地方に行ってみようという軽い気持ちで応募させて頂きました。1 ヶ月という短い期間でしたが、とても多くのことを考え、学んだ実り多い研修となりました。

羽田空港から高知龍馬空港までは約 1 時間程度と近く、飛行機の中から見ただけの四国地方は山が多く、また川がとても青くて自然が豊かでした。高知駅周辺は徒歩圏内に大型スーパーや繁華街、観光スポットがあり、生活していく上で不自由はないように感じました。近辺に高知医療センターや高知赤十字病院、高知大学附属病院があり、3 次救急やドクターヘリにも対応しているとのことで、医療も充実しています。

大月町は人口 5700 人余り、高知駅からさらに 2 時間半汽車に乗り、くろしお鉄道の終点である宿毛駅から車で 20～30 分の地点にあります。途中の中村駅までの JR 土讃線は 2 時間に 1 本、宿毛駅まで直通の特急は 4 時間に 1 本程度の運行であり、高知市内に出かけるには往復 6 時間を要します。町内にスーパーは 2 件、大月病院から最も近いコンビニエンスストアは片道 2.5km の距離にあり、院内に売店はなく自動販売機の補充は週 1 回程度です。また山の多い地形から起伏が多く、初日に自転車でコンビニエンスストアまで出かけたところ復路の上り坂に辟易しました。生活には自家用車が必須であり、ゆっくりと軽自動車を運転するお年寄りも何度も目にしました。

大月病院では、病棟業務や外来処置、救急の初療に携わらせて頂きました。常勤の先生方は院長先生を始め 3～8 年目と年が近く、地方の病院は地元出身のベテランの先生方が多いだろうと想像していたため驚きました。私が研修した大学病院では、診療科は細分化されているため専門外の分野は他科にコンサルトするのが当然であり、分類が難しかったり合併症のある患者様を何科が主科で担当するのがベストか議論になることもありました。しかし大月病院は地域の健康を担う最前線の病院であるため、先生方は専門の分野の枠を超えてプライマリケアを提供しており、地域の健康を支える、担う覚悟をもっていらっしゃる姿がとても印象的でした。患者様は後期高齢者が 9 割を占め、老老介護や高齢独居だけでなく、貧困や通院の手段を持たないことなど、超高齢者社会の日本が抱える社会問題について

考える貴重な機会となりました。また首都圏と比して患者様の医療知識も乏しいように感じ、それによるコンプライアンスの不良や、社会資源導入に対する躊躇があることも、適切な医療を提供する上で障壁に感じました。

沖の島へき地診療所は天候不良のため日帰りとなり、宿毛から1日2便の定期船で伺いました。沖の島は階段状の崖に家が立ち並び、歩けない人は島に居住できないため3年間で人口が300人から120人に減少したと聞き、離島の現状を目の当たりにしました。訪問した日はちょうど島の小学校の卒業式の日で患者様は多くなく、底まで青く透ける海や、手つかずの自然が多く残る島内を看護師さんに案内して頂きました。

1ヶ月間で最も印象的だったのは、先生方を始め看護師さんや医療スタッフの方、患者様やそのご家族の方、町の方が大変温かく優しくかったです。ペーパードライバーで車のない私に頻繁に声をかけて下さり、日用品の買い出しや観光、食事会に連れて行って頂きました。スーパーで町の方に割引券を頂いたこともありました。昼食は、毎日患者様から頂いた野菜、魚、果物が並び、町の皆さんに支えられて有意義な研修を送ることができました。心から感謝申し上げます。1ヶ月間、ありがとうございました。